

# 小竹だより

練馬区立小竹小学校 校長 泉崎 春海



平成25年6月号

No. 454

## 育 て る

校長 泉崎 春海

初夏を迎えて、植物たちは枝を伸ばし、葉を茂らせています。

今、小竹小学校でも、子どもたちが、アサガオ、さつまいも、稲など、いろいろな植物を育てています。アサガオの種をまいた1年生は、毎日のように「早く大きくならないかな。」と様子を見に行き、水やりをしています。そして、「芽が2つも出たよ」「私も出た」と嬉しそうな表情で報告してくれます。

以前、ある方から植物の育て方について、こんな話をうかがいました。

「植物の種をまく時のコツを知っていますか。」こんな問いかけをうけ、私はしばし考えました。土の種類かな、まく時期かな…と悩んでいるうちに、次のような答えが返ってきました。

「種をまくときは、その植物の大きさの分だけの土をかけてやるんです。小松菜などの小さい種は、その小ささに合うように、上からさっと土をかけてやればいい。大きな種は、大きい分だけ余分に土をかける。種の大きさの分だけの土が、その植物にとってちょうどよい土の量なのです。」

いつも種まきの時にはたつぷりと土をかけていた私が、そのことを話すと、

「自然界を見てごらんささい。種は自然に地面に落ちて、誰も土をかけてくれることはない。それでも、ぐんぐん大きくなっていくでしょう。土をたくさんかけてやるのは、植物にとって過保護なことなのです。必要な分だけ土があればちゃんと育っていく。子育てもそうですよね。」と話してくださいました。

私は、このお話に深くうなずいてしまいました。植物も子どもも、必要なものを必要なだけ与えればぐんぐん大きくなっていく。実に簡単なことなのですが、実際に行うのは難しいことです。ややもすれば、「もっとやったほうがいいかな」「足りないと困るからやっておこう」と、必要以上に手をかけすぎてしまうことも多いのではないのでしょうか。

また、必要なだけ与えるには、その様子をよく見なければなりません。植物も子どもも、日に日に大きくなり、毎日様子は違います。育てる側には、その状態をしっかりと見て、とらえる目が重要です。

今月は学校公開があります。是非、学校にお越しいただき、子どもたちの学校での様子を見ていただきたいと思います。そして、子どもたちの伸びているところを見つけ、これから伸ばしていくべきところをとらえる機会としていただければとありがたいです。

